

大阪損保革新懇ニュース

No. 73
2006. 3. 27

大阪損保革新懇事務局
大阪市中央区道修町三の三の十
大阪屋道修町ビル3F 〇六六三三二二〇九五

米軍や自衛隊はイラクから撤退せよ！

三・一九 世界反戦共同行動大阪集会・人絵文字に損保から四〇名が参加

イラク戦争開戦から三年目を迎えた三月十九日(日)に「イラク戦争NO! 自衛隊はスグモドレ! 米軍基地強化NO! 憲法九条まるごと守って平和を創ろう!」のスローガンで『世界反戦共同行動三・一九大阪集会』が十時半から四千人が集まり扇町公園で開催されました。

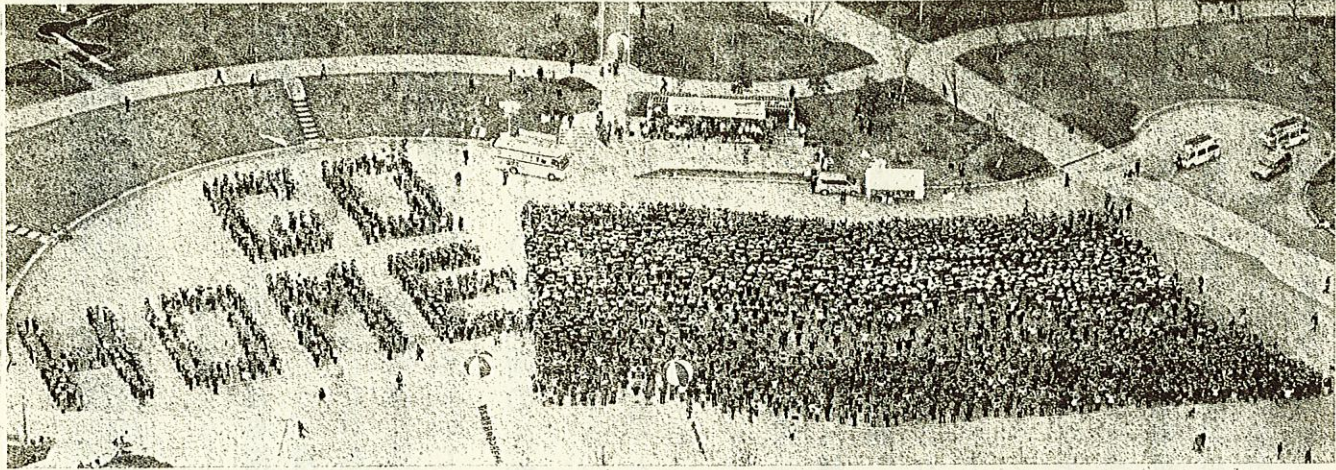
昨日の雨模様からはうってかわっての強風が吹きすさぶ晴れ間のみえる天候でした。全損保と大阪損保革新懇の仲間四〇名が参加し、集会参加者に向けて全損保大阪地協が提起した「東京海上日動火災の横暴首切りを許さず」として世論に訴えるピラと署名活動を行いました

主催者あいさつは植田保二(大阪労連議長)さん、イラク報告は西谷文和さん(フリージャーナリスト)、国会報告は吉井英勝さん(共産党衆院議員)が行われ、その後へ

4千人が 人絵文字 大 阪

大阪市北区の扇町公園では、四千人が集まり、平和の意思を不滅の虹色の旗をかたどった人絵文字でイラク戦争反対をアピールしました。参加者一人ひとりが赤や黄色の画用紙を頭に掲げ、米軍や自衛隊の撤退を求め「GO HOME」の文字も浮かび上がりました。

主催者を代表して植田保二大阪労連議長は「自衛隊撤退の声を大きくしましょう」とのべ、フリージャーナリストの西谷文和さんがイラク情勢を報告。日本共産党の吉井英勝衆院議員、米艦隊機部隊受け入れの是非を問う住民投票にとりくんだ岩国の山本まりこさんが連帯のあいさつをしました。



3/19付 しんぶん「赤旗」
記事から掲載

大阪損保革新懇 講演会 06-2

イラクからの報告

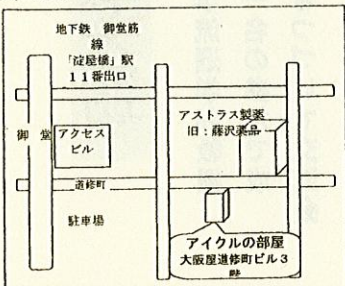
西谷文和さん:イラクの子どもを救う会
4/12(水) 6:30~ アイクルの部屋

*いま、イラクは?ファルージャの空爆の状況、戦争の民営化で民間の軍事会社の傭兵が最前線に立ち砂漠に埋められている。戦争で儲かっているのは誰か、戦っているのは貧しいもの同士自衛隊がサマワに行った本当の理由は何か、知らされていない実態がわかります。

イラクに行って写真を撮っておられる西谷さんに映像を通してお話を聞かせていただきます。

2006年春、大阪損保革新懇は『平和・憲法・損保の民主化』という3つのテーマでの講演会をシリーズで開催していきます。第二弾は、平和。泥沼化しているイラクでの戦争を検証します。ぜひお越しください。

アクセスは ↓



アイクル(関西金融労働問題研究会) 大阪市中央区道修町3-3-10 大阪屋道修町ビル3階 06-6232-1095

参加費: 1000円
交流会は別途
1000円
ビール・お酒・軽食付

三月十五日(水)アイクルの部屋にて十二回目の日新職場革新懇のつどいを開催し、三月という期末の非常に忙しい中、十三名が集まりました。今回は二名が六〇歳の定年を迎え、二名が退職し新たな道を進むという節目の「ご苦労さん会」を兼ねました。通常であれば送別会となりますが、今後も日新革新懇に積極的に参加してもらおうことから「激励会」でもありました。中川代表の乾杯・挨拶のあと「おでん」鍋をつつきながら、各々から近況と十分程度の「思い」を語りあい感動的な集いとなりました。今後も続けてほしいとの声から、夏には京都の鴨川での「川床」で集いを開催することを確認し深夜まで行いました。

日新革新懇

激励会となる感動的な集い

朝日闘争完結!

二名が大阪に戻る

大阪損保革新懇の会員である朝日の三名が、三月一日付で、朝日闘争の最終決着として『元の職場に復帰する』こととなりました。木又啓一君は姫路から大阪サービセンター、飯阪健一君が福山から大阪支店・関西内務課、川島美代子君が和歌山から豊中に配属。これで東京への二名復帰含めて二七年間にわたった朝日闘争は終結しました。

櫻田照雄教授 「小泉」改革「と」ライブドア」 講演会に部屋満杯の五一名参加で大成功！

3 / 7

講演会シリーズ第一弾として、三月七日（火）アイクルの部屋で、阪南大学流通学部教授 櫻田照雄氏を招いて「小泉」改革「と」ライブドア」の講演会を部屋満杯の五一名の参加で成功しました。幾人かの質問のあと、事務局から当面のとりくみを報告し、ひきつづいて交流会で飲食しながら和やかに歓談しました。

次回の第二弾は四月十二日（水）にフリージャーナリストの西谷文和氏（イラクの子どもを救う会）を招いて「イラクからの報告」の講演会を開催することとしました。

講演演習女七日

ライブドアの錬金術の仕組み？

ライブドアは、インターネットをベースにした「商品販売・広告業」（IT事業）と「金融業」（ファイナンス事業）の二つの顔を持って、事業展開し急成長してきた。二〇〇三年以降はファイナンス事業が全体の六五％を占めるに至った。その経営手法は、事業買収で知名度をアップさせ、株価上昇↓「錬金術」↓事業買収↓将来の期待↓株価上昇↓「錬金術」・・・というサイクルがライブドアの成長の秘訣でこれにマスコミが乗った。

今回の事件の顛末はライブドア・マーケティング社（当時はバリュウクリックジャパン）がマネーライブ社を買収する際、現金で実質的買収を終えていた事実を隠し、時期を合わせて実施した株式分割で株価の高値をさそい、実質的に支配していた投資事業組合に持たせた交換用の自社株を高値で売り抜け、売却益を還流させて決算を取り繕った。偽計取引・風説の流布・粉飾決算などの証取法違反の疑いで捜査が始まった。

ホリエモン騒動の教訓は

ホリエモン騒動の教訓の一つ目は、法律の網をくぐり抜けようとする者は必ず存在する。イタチゴッコになるというのはアメリカでは当たり前の話でアメリカでは「ループホーリズム」（抜け穴探し）という事で、八十年代の後半から九十年代にかけてものすごくはやりました。日本の場合法律の条文という形式的な点さえ満たしておれば、法律違反でないという考え方がバブルの時もそうでしたしITバブルの中で潜脱・脱法という形で浸透していた。

二つ目は、個人投資家にとって株式市場というのはゲームコーナーの感覚になっている。三年ぐらいで「三〇〇万円が五億円になった」という女性。「私にとって残高が増えていく事は、ゲームでいえばスコアが伸びていく事と同じだと言っている。「株で稼いだ財産は一〇〇億円を超えた」というのは、例のみずほ証券の誤発注で二〇億円儲けたという男性の話。こういう「拝金思想」がはびこる社会問題からいかに脱却していくのか。

三つ目は、「格差社会の是正」をマスコミも主張はじめているが、是正のために必要なものは何か根本的なことには口を閉ざしている。

四つ目は、日本での個人金融資産の五〇％以上は現金と預金です。ところがアメリカでは株や債券を持っているというのが五〇％を超え、同時にアメリカのSECには捜査権があれば強制執行権もあります。

ところが、主務官庁である日本の金融庁は、アメリカ的証券主義経済を指向しているにも拘らず規制や監督には及び腰であった。ところが注目すべき事件は、「高利貸し退治」を金融庁がやらずに最高裁がやりました。これによって、金融庁はようやく重い腰を上げて過払いを是正するよう動き出しました。

ホリエモン騒動が一層のアメリカ化を進めていくための契機になることも考えられる。それは「アメリカ的なスタイルにまだ足りきっていないからこういうことが起こるのだ」という論法で進められるのではないか。投資事業組合は来年から外国法人も作れるようになり本家本元がいよいよ乗り出していきます。

証券市場・経済システムのあり方について、ヨーロッパ・モデルの導入や日本モデルの創造も必要な時代にきているのではないか。

小泉「財政改革」とは

小泉「財政改革」は、一九七九年から八〇年代に行われた大蔵省の歳出百科、大蔵省主導による財政改革と中身は似ています。

ただ決定的に違うのはこの時はまだ国の予算・決算のレベル。つまり、歳出削減とか歳入の見直しだけでしたが、小泉「改革」で考えている事は、単なる予算（歳出削減）や税制改革にとどまらず、特別会計（歳出総額Ⅱ 四一・二兆円、純計Ⅱ 二〇・五兆円）も含めた、国家予算の歳出削減の「改革」に国民負担を押しつけながら乗り出そうとしている事です。

今回の騒動の基盤にあるのは、日米構造協議やフォロアーアップ委員会を受けた、一連の商法改正にあることは誰もが認めることです。

一番大事なことは、それに変わる「日本型資本主義」のビジョンをどうやって描いていくのか、労働という事、損保でいえば、金融という事、複雑ではあるが大事な課題に直面しています。